

洗足学園音楽大学 管弦楽団

第83回定期演奏会

2022年12月1日(木)

19:00開演

18:30開場

洗足学園前田ホール

指揮：秋山和慶（本学特別教授）

演奏：洗足学園音楽大学 管弦楽団

主催：洗足学園音楽大学

ご挨拶

本日は洗足学園音楽大学管弦楽団第83回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。

コロナ禍でこの数年、大学でも活動に制限のある時期が続き、特にこのオーケストラの中核メンバーである四年生にとっては辛い時期が長く続きました。皆様のお力添えで無事にこの日を迎え、四年生にとっては大学でのオーケストラ演奏の集大成となる演奏会を開催できますこと、心より感謝申し上げます。また、この演奏会開催にあたりご指導いただきました教員の先生方、ご尽力いただきました助手とコーディネーターの皆様、本当にありがとうございました。

本日は本学芸術監督の秋山和慶先生の指揮で、前半はフランスの作曲家ベルリオーズのローマの謝肉祭とイタリアの作曲家レスピーギのローマの噴水というローマをテーマにした2曲、後半にはドイツの作曲家ブラームスの交響曲第1番というオーケストラの名曲をお聴きいただきます。

世界で活躍するマエストロと若くエネルギッシュな学生の演奏、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

企画運営責任者 辻 功

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

PROGRAM

「序曲」ローマの謝肉祭 / H.ベルリオーズ

LE CARNAVAL ROMAIN / LOUIS HECTOR BERLIOZ (1803-1869)

ローマの噴水 / O.レスピーギ

FONTANE DI ROMA / OTTORINO RESPIGHI (1879-1936)

～ 休憩 ～

交響曲第1番 ハ短調 作品68 / J.ブラームス

SINFONIE NR. 1 IN C-MOLL, OP. 68 / JOHANNES BRAHMS:

第1楽章 ウン・ポーコ・ソステヌートーアレグロ

I. UN POCO SOSTENUTO - ALLEGRO

第2楽章 アンダンテ・ソステヌート

II. ANDANTE SOSTENUTO

第3楽章 ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

III. UN POCO ALLEGRETTO E GRAZIOSO

第4楽章 アダージョーピウ・アンダンテーアレグロ・ノン・トロppo、
マ・コン・ブリオーピウ・アレグロ

IV. ADAGIO - PIÙ ANDANTE - ALLEGRO NON TROPPO, MA CON
BRIO - PIÙ ALLEGRO

曲目解説

H.ベルリオーズ／ローマの謝肉祭

ルイ・エクトル・ベルリオーズは、フランスのロマン派音楽の作曲家である。

序曲「ローマの謝肉祭」は1838年にベルリオーズが書いたオペラ「ベンヴェヌート・チェッリーニ」から二つの主要な旋律を引用し1844年に作曲された演奏会用序曲である。

オペラ自体は失敗に終わったが、自身の作品への愛着から引用し作曲する着想を得たようだ。謝肉祭とはカーニヴァルやカルネヴァーレとも呼ばれる主にローマ・カトリックの国々で行われる祭りである。キリスト教にはキリストの断食に想いを馳せ肉食を断つ習慣があり、その前に肉を食べて楽しく賑やかに遊ぼうという祭事だそうだ。

この曲は華やかな序奏から始まり、直後にイングリッシュ・ホルンが哀愁を帯びた美しい旋律を奏でる。これはオペラの中の二重唱〈テレーザ、命よりも君を愛す〉から引用されている。後半の賑やかな箇所は〈ローマの謝肉祭〉の主題をもととして書かれ、イタリアの舞踊サルタレッロのリズムを用いている。

活発で盛大にクライマックスへ向かいまさにお祭りのようなラストをむかえる。

トランペット専攻4年 細谷 侑生

O.レスピーギ／ローマの噴水

この作品はレスピーギが作曲したローマの風物や行事を題材にした「ローマ3部作」と呼ばれる3つの交響詩シリーズの第1作目である。この作品では数あるローマの噴水の中から「夜明けのジュリア谷の噴水」、「朝のトリトンの噴水」、「昼のトレヴィの噴水」、「黄昏のメディチ荘の噴水」の4つを選び、夜明けから夕暮れまでの情景が途切れることなく続けて演奏される。

第1曲「夜明けのジュリアの谷の噴水」

他の3曲と違いジュリアの谷の噴水だけ具体的に場所が特定できていない。この曲では、牛の群れが過ぎ去り、ローマの夜明けにたちこめた霧の中に消えてゆくという、牧歌的な情景を描いている。木管楽器による牧歌的な旋律に注目して聴いて頂きたい。また、Rシュトラウス作曲「ばらの騎士」の銀のばらの献呈の場面に似た和音が出てくるので、そこも聴きどころである。

第2曲「朝のトリトンの噴水」

トリトンの噴水はローマ旧市街のバルベリーニ広場にある。全管弦楽のトリルの上でホルンが突然フォルティッシモで鳴り響くと、第2曲の「トリトンの噴水」が始まり、その響きは喜びにあふれた叫び声のようである。ナイヤード（水の精）とトリトン（半人半魚の海の神）が群れをなして走りより、互いに追いかけあい、水しぶきの中で放縦な踊りを踊ろうとする様子を表現している。

第3曲「昼のトレヴィの噴水」

トレヴィの噴水は、バルベリーニ広場からトリトン通りを経てパンテオンに向かう旧市街の中心にある壮大な噴水である。管弦楽の波動の上に厳粛な旋律が現れ、主題は木管楽器から金管楽器へと移り、ファンファーレが鳴り響く。光り輝く水面の上に、ポセイドンの馬車が海馬に引かれて、人魚とトリトンの行列を従えて通り過ぎる様子が描かれている。

第4曲「黄昏のメディチ荘の噴水」

メディチ荘はローマ市街が一望できる丘の上にたっている。メディチ荘の噴水からは夕陽とともに移ろっていくローマ市街が見ることができる。フルートとコールアンブレによるもの悲しい主題で始まり、夜明け、朝、昼と噴水とともに過ぎて行ったローマの一日も黄昏時をむかえ、遠くで教会の鐘が鳴り、小鳥の歌や葉擦れの音とともに曲は静かに消えていく。

オーボエ専攻4年 堀 友香

J.ブラームス／交響曲第1番ハ短調 作品68

ヨハネス・ブラームスは1833年5月7日ドイツのハンブルグにて生まれ、その後活動の拠点を移した先であるオーストリアのウィーンにて、1897年4月3日に没した。音楽教育を市立劇場のコントラバス弾きであった父から受け、作曲をドイツのピアニスト兼作曲家のマルクスセンに学んだ。ブラームスは同じドイツ出身のシューマン、そして妻のクララと大変親しく、生涯に渡って交流を続けていた。

交響曲第1番は1876年、彼が46歳の時に完成した。着想から完成には20年以上を要しており、ベートーヴェンの後継者という強い自覚が窺える。

第1楽章 Un poco sostenuto –Allegro

ティンパニを中心に重苦しい緊迫感の中から始まる。第一主題はテンポが変わりAllegroとなり、木管そしてヴァイオリンに出てくる主題は、第1楽章の中で何度も反復される。

第2楽章 Andante sostenuto

ホ長調の明るい調声の中で、冒頭の旋律が静かに歌われる。オーボエ、ホルンのソロがヴァイオリンのソロに対声を加えながら発展していく。

第3楽章 Un poco allegretto e grazioso

従来、第3楽章にはスケルツォを置くことが多いが、素朴な旋律をモチーフとしたインテルメッツォ（間奏曲）を配置している。木管の柔らかな音色で歌われる。

第4楽章 Adagio-Allegro non troppo, ma con brio

最終楽章では3本のトロンボーンが追加され、力強さを表現している。序奏部では、暗い和声と重い半音階がまだ闇の中にいることを窺わせ、徐々に苦難を過ぎて闇から光へと移行行く様子が感じられる。Allegroに入ると、弦楽合奏によりベートーヴェンの第9を思わせるような主題が奏でられる。音楽はクライマックスに向け高揚していき、序奏部で奏でられたコラル風の主題が再び高らかに演奏され華やかに全曲を閉じる。

ヴァイオリン専攻4年 頼近 友莉奈

指揮

秋山 和慶
KAZUYOSHI AKIYAMA



(C) TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

1941年生まれ。齋藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間、トロント響副指揮者、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督（現在桂冠指揮者）、シラキューズ響音楽監督、大阪フィル首席、札幌響首席、広島響首席、九州響首席などを歴任。サンフランシスコ響、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、フィラデルフィア管、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、ロイヤル・フィル、NDR北ドイツ放送響、ケルン放送響、ベルリン放送響、スイス・ロマンダ管、チューリッヒ・トーンハレ管などに客演している。

1991年東京響創立45周年記念ワールドツアーでは全公演を指揮して大成功をおさめ、1994年には同団第400回定期演奏会を記念したシェーンベルクの歌劇「モーゼとアロン」（演奏会形式）を指揮、各紙から絶賛を博し同年音楽界最大の話題となった。また同公演のCDは各レコード誌より国内外で高く評価された。ふたたび1996年東京響創立50周年記念ヨーロッパ公演を指揮して同公演を成功に導き、2001年には同団創立55周年トルコ・イタリア公演を指揮し各地で好評を博した。1997年にシェーンベルク：ヤコブの梯子、ヤナーチェクの歌劇「利口な女狐の物語」（舞台上演形式）、2000年ラッヘンマン：歌劇「マッチ売りの少女」（演奏会形式・日本初演）、ヤナーチェク：歌劇「カーチャ・カバノヴァー」（原語による日本初演）、2003年にはジョン・アダムズ：「エル・ニーニョ」（日本初演）を取り上げるなど常に新たな挑戦を続けている。

これまでに第6回サントリー音楽賞（1975年）、芸術選奨文部大臣賞（1995年）、大阪府民劇場賞（1989年）、大阪芸術賞（1991年）、第36回川崎市文化賞（2007年）、広島市民賞（2008年）をはじめ、東京響とともに毎日芸術賞（1994年）、第8回京都音楽賞大賞（1993年）、モービル音楽賞（1996年）、第29回サントリー音楽賞（1997年）を受賞。2001年11月に紫綬褒章、2011年6月には旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。同年中国文化賞（広島）、徳島県表彰特別功労賞を受賞、2015年渡邊暁雄音楽基金特別賞を受賞。

2014年指揮者生活50年を迎え、2015年2月には回想録「ところで、きょう指揮したのは？」（共著／アルテスパブリッシング刊）を出版。現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、日本センチュリー交響楽団ミュージックアドバイザー、岡山フィルハーモニック管弦楽団ミュージックアドバイザー、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者など多くの任を務めるほか、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。

MEMBER

Concertmistress	早川 萌音	頼近 友莉奈	勝部 小夏		
Violin I	栳田 翔允 鴫田 翔 小玉 みどり	長沢 明日香 松村 歩美 小林 彩	小林 真子 宮崎 莉子	島村 佳奈 稲本 雄介	鈴木 光菜 兼子 萌花
Violin II	秋友 龍馬 三谷 月菜 マノユ 瑠南	井上 海燦 隈元 めいみ	宇根 由利子 鈴木 利々果	久本 奈海 武田 妃那	佐々木 郁子 寺岡 彩菜
Viola	宇津木 遙花 榎本 知香*	米倉 海陽 岡部 佳純*	齋藤 亜花羽 門井 晴子*	宮島 麻歩 高橋 楓*	岩松 優* 中野 綾子*
Violoncello	杳掛 雛乃 鈴木 岳*	佐々木 七穂 三原 香璃*	雪江 颯太 山本 健太郎*	大友 美侑*	丹野 陽介*
Contrabass	榎 さわ 平木 晶穂*	小泉 聡一朗	福田 凪佐	嶋野 晴斗 #	高野 響花*
Flute	梅崎 真綾 筒井 さくら	榊原 里來 町田 花音	園田 凪琉	辻 陽香	土持 志織
Oboe	宇治 愛	堀 友香	宮本 菜摘	奥野 彩	
Clarinet	磯崎 優香 笠 歌純	上條 里彩	中田 紫乃	成瀬 未涼	福永 愛華
Bassoon	塩谷 花笑	加藤 彩音	上治 唯奏	鹿山 唯	平川 眞鈴
Horn	浅田 万結 金井 亮介	佐藤 俊輝 大塚 季*	半崎 愛理	山口 亜希菜	梶田 茉朋
Trumpet	芦川 大樹 高木 美雨 溝口 大輔	磯野 沙弥香 谷口 諒	植田 優花 冨永 倫	江原 春香 檜山 沙南	佐々木 右京 細谷 侑生
Trombone	小森 豊生	篠塚 裕太	神野 葵	長坪 海斗	平野 結梨香
Tuba	齊藤 徹也	吉田 怜生			
Percussion	大石 水紀 福本 奏音	近藤 寛斗 横木 秀真	佐藤 綾香 川崎 友仁	中田 実紅	林 拓海
Piano	山口 琴世 ♭				
Celesta	中尾 優里 ♭				
Organ	原田 真侑*				
Harp	藤木 沙織 #	大隅 レオナ*			

企画運営責任者 辻 功 (教授・学部長補佐)

企画運営副責任者 勝俣 泰

弦楽器担当責任者 中一乃

指導教員

安藤 敬 瀬尾 宗利 吉田 行地 中一乃 長原 幸太

沼田 園子 三又 治彦 渡邊 ゆづき 安藤 裕子 井野邊 大輔

荒 庸子 羽川 真介 藤村 俊介 今野 京 矢内 陽子

森 圭吾 倉田 優 佐藤 亮一 辻 功 吉村 結実

鎌田 浩志 小林 利彰 近藤 千花子 中館 壮志 石井 淳

石川 晃 宇賀神 広宜 鈴木 一志 水谷 上総 吉田 将

勝俣 泰 小林 祐治 久永 重明 神代 修 中山 隆崇

林 辰則 古田 賢司 古田 俊博 池上 亘 門脇 賀智志

府川 雪野 次田 心平 渡邊 功 井手上 達 清水 太

幸西 秀彦 山田 徹 小林 裕子

助手

中村 日向子